



高見 公雄 Kimio Takami

法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科 教授

株式会社日本都市総合研究所 代表

Email : takami@hosei.ac.jp

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-33[法政大学市ヶ谷田町校舎]

FAX: 03-5228-1438

■主な経歴

- 1955年 横浜市生まれ
- 1979年 東京藝術大学美術学部建築科卒業
- 1981年 東京藝術大学大学院美術研究科修了
- 1981年 株式会社日本都市総合研究所入社
- 2009年 法政大学デザイン工学部教授
- 2013年 東京藝術大学建築科非常勤講師

■所属等

- 都市環境デザイン会議正会員
- 公益社団法人日本都市計画学会正会員
- 公益社団法人土木学会正会員
- 公益社団法人区画整理促進機構理事
- NPO法人静岡都市デザイン機構理事長

■活動のビジョン

大学で建築を学ぶうち、単体で勝負していても限界があるように思ってきた。単体で勝負しようとするから、建築家はより先鋭的なデザインを目指し、それがかえって時間に耐えない場合もある。

長いことやってきて見つからないものが、この先見つかるとも思えないのだが、修士課程のころからずっと「現代の日本のよい街並み」を探している。

■自身が考える都市デザイン、まちづくり等の課題と解決策等

私たちが暮らすまちに親しみはあるけど、直したいところは沢山ある。都市設計や地区設計などを仕事にしていると、「国内でよいと思う街はどこですか。」と聞かれる。歴史的地区、自然環境豊かな地区を除くと、さあどこだろう。20世紀に私たちや先輩たちが頑張ってきた。面的開発地なども大概はそういった時に挙げることを躊躇する。そこに深刻な問題を感じている。

■自身が関わった活動・作品・現場の概要

亡くなった加藤源もそうだけど、地区設計や面的な調整のデザインばかりやった訳ではない。都市計画コンサルタントなんて何でも屋だから、国土計画から法整備の裏方まで何でもやってきた。が、ここでは地区設計のみを紹介。

一つ目はやはり、旭川。20世紀末の国鉄跡地開発のうち、最大級かつ最も総合的に進め得た事業だと思っている。私(と加藤)は1991年から今日まで20数年連続で関わらせてもらっている。国鉄旭川車両センター跡地を含む87haの区画整理と隣接する国管理河川である忠別川の河川空間整備、JR函館本線等の高架化忠別川への3本の新橋の架橋を一体的計画のもとに進めたものである。川沿いの市街地、河川空間との連続性の観点から地区全体の将来像をランドスケープデザイナーのビル・ジョンソンに描いてもらい、この構想に従い各所を具体化していった。駅舎には建築家をとJR北海道と粘り強く交渉し、内藤廣さんに頼むことができた。土木施設などの全体監修は篠原修さんだ。2014年7月に地区はグランドオープンした。しかし良い現代の街並みはできなかった。いや、そうでもない。

二つ目として、HAT神戸を挙げる。阪神大震災の復興事業の目玉として進められた事業である。短期集中型でこれも多くのデザイナーに定期的に集まってもらって、設計図を持ち寄り相互調整してまちを造った。晩年加藤はこの神戸東部新都心の取組みを少し忘れてしまっていたが、20数年に渡る旭川の取組みとよく似たものを2年間で進めたものである。場所が場所であり有名建築家の共演となった。高名な先生との調整は殆ど成果を結ばなかったが、地区全体を見れたことは良かったと思う。



上 建設中の富良野線高架橋(2007年)
中 北彩都あさひかわ全体模型
下 HAT神戸の全体計画図。震災復興の目玉事業であった。



左 1996年頃、ビルが描いた駅とガーデン
右 完成した駅舎とガーデン(2014年)。細部は異なるものの、当初のイメージは重要である。



左 1996年頃、ビルが描いた全体俯瞰図。川から自然空間をまちへ引き込もうとする意図が読み取れる。
右 完成したパークウェイ(南6条通)、道路左側は河川沿いに新設した公園。右側は宅地、奥に高架橋と旭川駅が見える。



「生態階段」と称する親水空間。これは殆どが河川空間である。国(開発局河川部)はよく付き合ってくれた。

公園ではない。左から国の合庁、国鉄レング造建物の再生利用、右は市の科学館。それぞれの敷地から4割公開空気を抛出させ、一体にデザインした。